

ディプロマ・ポリシー

D1. 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、幼児教育学領域の知識や技能と統合して活用することができる

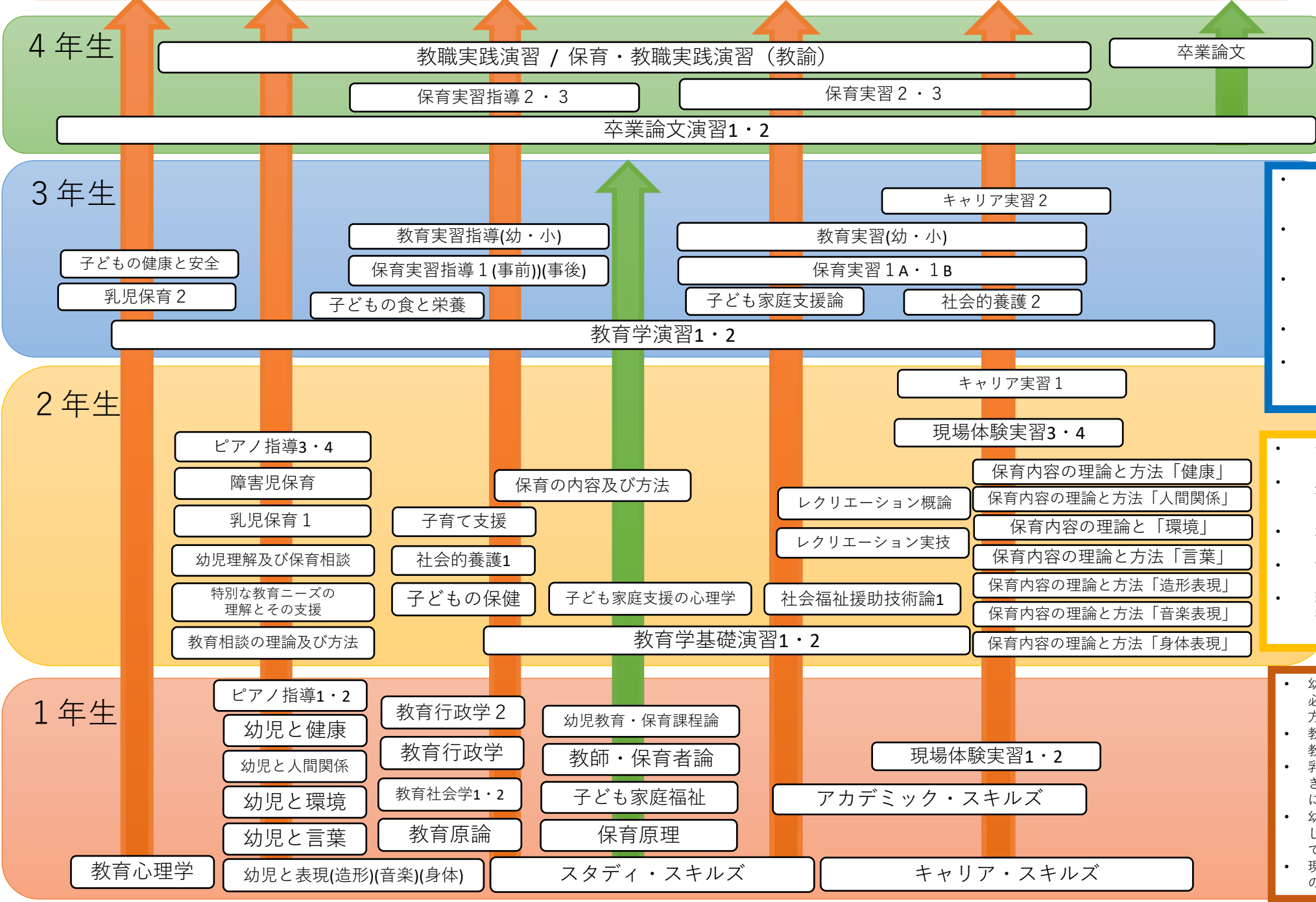
D2. 幼児教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる①幼児教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している②幼児教育学領域の深い知識構築や技能修得をしている③社会（特に園）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる④社会（特に園）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる

D3. 社会（特に園）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、幼児教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子どもの発達成長に貢献することができる

D4. 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・保育者）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができる

幼児教育学科 カリキュラムツリー

学年の到達目標



- ・ 保育・教育職に関する学びの軌跡を振り返り、自己課題を明確にし、教師・保育者として必要な実践的資質能力や指導技術を高める
- ・ 研究の進め方と実践について学び、研究を遂行し、発表・討議を通して研究成果を卒業論文としてまとめる
- ・ 4年間の大学での学びの集大成としての卒業論文を執筆・提出する

- ・ 多様化する教育・保育の現場に求められる保育者の職能について理解を深め、個々の乳幼児の発達に応じた保育実践ができる
- ・ 家族・家庭の置かれている現状や課題について理解し、保育者に求められている家族・家庭への支援について探究する
- ・ 保育・教育職の業務を理解し、自らの実践力を養うとともに、実践を理論的・客観的に整理し、自己課題を明確にする
- ・ 幼児教育・保育現場の支援・指導の実際を理解し、保育者としての資質・能力、使命感を身につけている
- ・ 教育学研究の基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、自らの研究の方向性を模索しながら、思考力・判断力・表現力を養う

- ・ 子どもの心身の健康や障害のある子どもの保育の実際について学び、問題の捉え方、支援の方法について探究する
- ・ 周囲の様々な人・もの・こととの関わりの中での子どもの育ちを理解し、諸問題に対するアプローチの道筋を立てることができる
- ・ 幼稚園教育要領等に示された各領域のねらいと内容を理解し、その指導法を習得している
- ・ 世界の主要な国々の教育・保育の最新の動向や課題を知り、これからの日本の教育・保育のあり方について考察する
- ・ 現場体験を通して、保育・教育現場の体制や業務を体験・学習し、教育・保育職に必要な資質・能力について理解をしている

- ・ 幼児教育学科のポリシーや教育内容を理解するとともに、必要となる学び方の技法（文献検索手法、レポートの書き方等）を身につけている
- ・ 教師・保育者に求められる資質や能力、学校・園における教師・保育者の仕事の実践について理解している
- ・ 乳幼児の発達及び学びの過程、幼児教育・保育で保障すべき保育内容を理解し、保育実践につながる知識や技術を身につけている
- ・ 幼児教育・保育の歴史・現状、行政・制度のあり方を理解し、保育を全体的・総合的に捉える基礎的視点を身につけている
- ・ 現場体験を通して、保育・教育現場の体制や教師・保育者の業務を体験的に学習している

学びを支える土台となる科目

共通教養科目（仏教・自校教育科目群「**ブツダと法然**」など）（グローバル科目群「**必修外国語**」など）（データサイエンス科目群「**ICTリテラシー**」など）（自己形成科目群「**ことばと文学**」「**世界の中の日本文化・京都文化**」「**日本国憲法**」「**福祉と社会**」「**教育事情を知る**」「**宇宙を考える**」「**生命を考える**」など）

学科基礎科目「教育哲学」「教育史」「教育人間学」「臨床教育学」「学校経営論」「学級経営論」「発達心理学」「比較教育学」「教育法規」「教育評価論」

学科専攻科目「人権(同和)教育」「ICTの活用及び教育」「国際理解教育演習」

関連科目「宗教教育論」「視聴覚教育メディア論」「仏教音楽教育論」